

「利根川水系小貝川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

日 時：令和元年 12 月 2 日（月）10:00～10:20

場 所：国道交通省関東地方整備局下館河川事務所

発言者：公述人 5

おはようございます。

私、つくば市吉沼旧大穂町の■■■■と申します。よろしくお願ひいたします。

私、ちょうど 15 年くらい前に脊柱管狭窄症という病気に罹りまして、東京のほうの病院に入院をいたしました。で、その間手術の失敗もありまして、約 60 日間入院しまして、退院後はリハビリのために毎日散歩ということで、小貝川の土手を毎日散歩しておりました。ちょうど私のその当時の散歩は後ろ向きに約 3 キロほど毎日歩きました。最初は歩けなかったんですけども、それも慣れて歩けるようになったということでありまして。ちょうどその時に、小貝川を散歩している時にあまりにもゴミの多い、小貝川にゴミが多いということに気づきまして、これをなんとかしなくちゃならないと自分なりに考えまして、当時そのゴミ拾いをしたというのが今でも続いているということでございます。

当時、ゴミのなかにも冷蔵庫そして洗濯機、タイヤ、墓石までありました。市役所のゴミ対策課に私はお願ひをして、そしてこのゴミをなんとか持っていってもらえないかというようにお願ひしたのですが、市のほうの返答は持っていけないと、小貝川の敷地内のゴミは駄目だと言われました。当時私、区長をしてましたので再度、次長、課長に連絡をして、このゴミをなんとか持っていってもらうように。そして市役所から 4 人、5 人ぐらいの人が来まして、1 トン車の車に 2 台ほど積んでゴミを運んでもらった。当時の水海道出張所の所長さんに立ち会ってもらって職員の方たちと来て写真を撮っていたというのが現実であります。

ちょうどそれ以来、私は愛国橋から下流のゴミは責任もって拾うということで、約 1.5 キロくらいあると思いますけれどもその間を私がゴミを拾っている。台風と大雨の時の増水の時はペットボトル、缶、ビンなど拾い集め、ゴミの袋に入れ土手の上に置いておくと、パトロールの車が持って行ってくれる。台風 19 号、15 号、19 号の時には約 50、40 リッターの袋で 50 以上の袋のゴミを拾いました。それは全部、当時の工事の業者が持って行ってくれたということもあります。

そして小貝川の土手に上がるところが砂利道だったんですけど、当時の所長さんにお願ひをして、全部舗装にしてもらった。また車が入れないように、ゴミを捨てられないように、3 箇所にも車止めをやってもらったというのがあります。そしてまた、ここの道路が檜の木を植えてあるのですけれども途中で、その檜の木を本来なら桜の木に植え直してくれということもお願ひしたこともあります。現在檜の木が植えてある所、住民の皆さんが毎日散歩、レクリエーションあるいは自転車など、毎日使用してここを使っているというのが現実であります。

現在は自分で土手の下の土地約 100 平米を買収、自分がしましてそしてそれをみんなで砂利を入れてそして、小貝川ふれあい駐車場という看板を檜の板に、これは書いたんでは無くて彫って、実際に石を彫る機械で彫ってもらって、そして今現在そこに看板を立て、釣りの人や散歩の人が車を置いて、非常に喜んでいるというように私は思っております。

そしてこの小貝川の地はまさしく景色としてはもう、つくば市にはここしかないほどの景色の一番い

いとこなんです。山が鶏頂山から始まって日光の男体山、そして日光の白根山、赤城山、浅間山、谷川岳連峰、そして富士山、秩父連峰まで全部眺められます。私はその眺めのいいところを、木もなんとか切ってもらえないかということも何度か所長さんにお願いをしています。まさしく、このふるさと、うさぎおひしかのやまの「ふるさと」が流れるこの地は歌がでてくるような地だと私はそういうふうに思っています。この「ふるさと」、余談ですけど、「ふるさと」のうたが流れる高野辰之先生の地元、信州長野はほんとに山は筑波山の半分ぐらいしかないんです。そして川は斑川という川なんですけども、水もほとんど流れてないんです。そんなところでこんな歌が出てくるんです。ということはあの小貝川を見るともっと素晴らしい歌がでてもいいのかなというふうに自分では考えております。

この地はいつまでも残してくれよということは、つくば市の五十嵐市長にも何度もお願いしているということでございます。

また昔からこの地は洪水にみまわれまして、私の子供時代は1メートルぐらいの高さしか土手周りにはなかったんです。それが河川工事をやって今現在の土手の広さ、大きさになっているということで、洪水というのは昭和61年の時にあの大水になりまして、そしてあの時には私の家のすぐ下まで水が来たというぐらいの海のような状態だったというのは記憶があります。そしてまた現在では、草刈りなんですけども、今は2回ほどの草刈りはしてもらってますけど、私はそれを4回ぐらいやってくれと、ほんとに草が、きれいに土手になっていけば散歩している人も気持ちも良いし、そしてまた、ものを捨てることは絶対ないと思うので、それは所長にも何回かお願いしているということもあります。そしてまたこの地がゴミの無い、景色の良い川にしてもらうことだけは私は切にお願いしたいと思います。

また、市と一緒にあって、なんといいですか今、つくば市では「吉沼を考える会」、吉沼を元気にする協議会という会が10月の20日に発足しまして、現在協議をしていると思いますけれど、何かこれを小貝川と一緒にしないかなと、この景色の良い小貝川の土手の風景を残してもらうことによって、吉沼も元気になるんじゃないかなと、そして先ほども言ったように高木の木を切ってもらうことによって眺めも、下妻、常総市がらみでも筑波山はまったく借景の良いバックに見える山だというふうに思っています。また家の方から見ると先ほども言ったような、山が全部見えるということで、この木をぜひ切ってもらいたい。

河川の中が非常に葦が生え、茅が生え、柳の木が自然に生えて非常に見辛い状態なんです。そして私、いろんな所を全国、車でほとんど歩きますけども他はほんとにきれいな川なんです。そのきれいなところはレクリエーションとして、子供たちが遊んだり野球したり、いろんな運動をやったり、またシルバー会が来て遊ぶような所。そういうふうに私は小貝川もできたらやってもらいたい。ということをお願いしたいと思います。そしてまた檜の木が植わっているあの場所に四阿ぐらいのを建てて、休憩所を造って、そしてちょっとした椅子を置いたりして、なんとかあそこの所で散歩に行って一服するような所を造ってもらいたい。さきほどもちょっと話しましたが、あの檜の木じゃなくてなんとか桜の木を植えてくれと、檜の木じゃなく桜にしてくれということも私はお願いしたいと思います。

また、今回のこの、今の景色を見て、なんとか小貝川、これから先もきれいに私は責任を持ってゴミを拾おうと思っていますけれども、今現在はこのあいだの15号、19号ですかの時にかなりペットボトルとかあるいはビンが流れてきたのもきれいに拾いました。まだまだ小貝川の草が生えているところには、ペットボトルとかそういうのも拾ってないところもありますけれども、これも先行きは自分で拾うつもりでいます。ということで私はそういうことを考えているということでもあります。ぜひお願いした

いのは、高木だけはなんとか切ってもらいたい。ということだけは切にお願いをしたいと思います。

そしてまたいろんな、その芝生のところをつくってもらうことによって、集落が管理したり、あるいはボランティアの人を募集して管理するという事は可能じゃないかな、というようにも思っています。あるところに依りますと小貝川の土手を集落で刈ってるというところも茨城にあるということを茨城町のほうに行ったときに聞きました。部落の方が土手の草を刈ってるというような話を聞いたことがあります。

また、今回の氾濫した千曲川ですか。あの川は桜並木が1キロ以上あるんです、あそこには。土手のところに。そういうところもあるんです。だからなんとか私も小貝川の土手に桜の木を寄付してもらって全部植えちゃっていいかと、愛国橋から下、桜の木を植えてもいいかということは何度か言ったことがあるんです。でもその時の所長さんにはダメだということでそれも出来なかったんですけども。なんとか私がお願いしたいのは今の土手の中の木、それはできれば切ってもらいたい。そしてあの借景はつくば市に、吉沼しかない。つくば市全部歩いてもあの景色の良いところは吉沼だけなんです。そういう景色を孫の代まで残しておいてもらう。こういうことを私はお願いしたいと思います。

そういうことで私の意見は終わりにしたいと思います。よろしくどうぞお願いします。